

大学

アーカイヴズ

全国大学史資料協議会東日本部会会報

2023.10.31 No.69

Japan Association of College and University
Archives : Eastern Japan Division

目次

- ・阿部 裕樹「法政大学多摩キャンパスでの研究会に参加して」…………… 1
- ・杉崎 友美「[明治大学史資料センターにおけるアジア留学生史研究の現状と課題]を拝聴して」…………… 3
- ・白土 亜枝「全国大学史資料協議会第133回東日本部会研究会に参加して」…………… 5
- ・全国大学史資料協議会東日本部会2023年度総会議事録…………… 7
- ・全国大学史資料協議会東日本部会幹事会議事録…………… 11
- ・全国大学史資料協議会東日本部会研究会記録…………… 13

2023年3月16日（木）第132回研究会（於：法政大学多摩キャンパス／ハイブリッド）

法政大学多摩キャンパスでの研究会に参加して

明治大学史資料センター 阿部 裕樹

2023年3月16日(木)、法政大学多摩キャンパスにおいて第132回研究会が開催された。最初に古俣達郎氏（HOSEI ミュージアム准教授、個人会員）による「法政大学多摩キャンパスの歴史と現在——多摩地域における大学キャンパス形成史の一事例として」と題した講演を拝聴した。

講演では、多摩キャンパスの概要、法政大学のキャンパス変遷史（多摩キャンパス開設は1984年）について確認した後、多摩キャンパス開設までの歴史を、戦後の他大学の郊外移転（特に八王子市の学園都市構想や中央

大学の多摩移転などを参照）の中に位置づけながら紹介された。具体的には、まず戦後の法政大学における施設や教育環境面の諸課題、教員の負担増、大学の資金難などが指摘され、その解決策のひとつとして新キャンパス構想が生まれてきたことが紹介された。次に新キャンパス開設にあたっての諸課題に取り組んだ当時の大学役職者たちや学生たちの証言、さらに他大学と比べて非常に盛んであった法政大学における学生運動の影響による計画中断、学内における意見の不一致（キャンパス移転についての学部間の温度差）が

あったことが紹介された。これらは、どちらかという、新キャンパス開設・学部移転への障害となった点である。続いてキャンパス開設後の課題として交通アクセスが十分でなかったことが学生たちの証言とともに紹介された。その後は、図書館や諸研究の整備が進められた。最後に21世紀以降から現在まで続く取り組みとして、新学部の設置、多摩地域交流センターの設置、学生による地域連携活動について指摘があり、あわせて課題として校舎更新などの諸課題と、多摩キャンパスの将来構想について紹介された。質疑では、法政大学と来歴が近い法学系の私立学校（現在の専修大学、中央大学、日本大学、明治大学）との比較について指摘があった。



古俣達郎氏による講演

その後施設見学となり、まず宇野淳子氏の案内により法政大学大原社会問題研究所環境アーカイブズの取り組みが紹介され、閲覧室で大学史関係資料を拝見するとともに、書庫（収蔵庫）を見学した（環境アーカイブズは2009年に設立され、2013年から大原社会

問題研究所に統合された）。同アーカイブズは大学史関係資料の収集を目的とした機関で



大原社会問題研究所での見学会

はない。したがって、同アーカイブズが所蔵する大学史関係資料は、個人資料の中に含まれているものであり、法政大学ではなく他大学に関するものであった。筆者（阿部）も、他機関が所蔵する自大学史関係資料の調査を行う機会があるが、このような場合は機関同士の横のつながりによって情報を得ることが少ない。その意味で、今回のような研究会の場で、（一見、関係資料を所蔵しているとは思われない）他機関所蔵資料情報について知ることは、たいへん意義のあることと考えさせられた。

次に、中村美香氏の案内により法政大学大原社会問題研究所（1919年設立、1949年に法政大学と合併）が所蔵する大学史関係資料などを収蔵庫で実見した。同研究所は歴史も古く、これまでも所蔵資料の一部についての知識は持っていたが、筆者（阿部）は初めて、そのたいへん大きな収蔵庫と、膨大な収

蔵資料を拝見した。同研究所が研究機関として果たされてきた成果も、いうまでもなくたいへん大きなものであるが、今回は資料保存機関として果たされてきた（今後も果たされていかれる）歴史の一端を拝見することができ、改めて同研究所のこれまでの活動に対して、同じく資料保存業務に従事する者として敬意を抱かずにはいられなかった。

今回の研究会は、限られた時間のなかであつたが、法政大学さんの歩みとともに、大学史関係資料を含む膨大な資料とその保存状況を実見する機会となり、たいへん参考になった。今回の研究会をご準備くださった法政ミュージアムの皆さん、講演された古俣氏、案内くださった宇野氏、中村氏に御礼申し上げます。

2023年5月18日（木）東日本部会2023年度総会（於：明治大学／ハイブリッド）

「明治大学史資料センターにおける アジア留学生史研究の現状と課題」を拝聴して

日本女子大学成瀬記念館 杉崎 友美

2023年5月18日、明治大学において全国大学史資料協議会東日本部会2023年度総会、記念講演会が開催された。

記念講演会では、明治大学史資料センター副所長 明治大学文学部教授の高田幸男氏による「明治大学史資料センターにおけるアジア留学生史研究の現状と課題」と題した講演が行われた。

明治大学史資料センターは1962年に設置された歴史編纂資料室を前身とし、2003年に発足した。そのセンター内の研究班として、2010年に高田氏を班長として立ち上げられたのがアジア留学生研究会である。研究会成立の背景には、戦前期にアジア留学生を受け入れていた主要大学の一つが明治大学（明治法律学校）であったことがあげられる。

明治大学が最初に受け入れた留学生は1896年の金相淳（朝鮮国）で、翌年には大韓帝国からも国費留学生が入学している。高田氏は留学生を受け入れていた法政大学清国留学生法政速成科、早稲田大学清国留学部、私立経緯学堂（実質的に明大が運営する別法人）の入学者数と卒業生数を示され、いずれ



部会総会（2023.5.18）

も卒業に至ったのは半数前後であったと述べられた。また明治時代末期の留学生の9割以上は地方よりも東京で法学を学ぶことを目的としていたこと、戦前期30年間の明治大学では特に中国人留学生を多く受け入れていたこと等、詳細なデータを示された。

私が勤務する大学で最初の留学生を迎えたのは明治大学から下ること10年後の1906年で、のちに中国の女性革命家となった何香凝である。初期の留学生は中国からだけであったが、しだいに朝鮮、台湾、満州からの入学者が増えていった。しかし卒業まで至るものは少なく、入学者数の半数ほどに留まっている。本学は女子大学であり、明治大学とは置かれた状況は異なるが、留学生事情を重ね合わせながら大変興味深く拝聴した。

高田氏は、2010年度研究課題「近代東アジア人材養成における明治大学・経緯学堂の役割」（2010年度「明治大学新領域創成型研究」に採用される）において、経緯学堂に学んだ留学生のデータベース構築に着手され、2012～2014年度研究課題「アジアの政治社会の民主化と明治大学留学経験についての総合的研究」（「明治大学人文科学研究所総合研究第一種」に採用）では、さらにデータベース構築作業を進められている。また上海、ソウル、台北、台南で調査を実施、校友会大韓民国支部や台湾支部の協力を得て資料収集やインタビューを行っている。このインタビュー後間もなく亡くなられた方もおられ

たそうで、貴重な機会となったというお話があった。

2019～2022年度研究課題「東アジア近代法学・関連諸科学ネットワークと人材育成」（科学研究費補助金事業基盤研究(B)に採用）では、コロナの影響によりデータベース作業が中断、海外調査や文書館交流も延期となり、計画の再編を余儀なくされたとのことであった。しかしそのような状況においても、



高田幸男先生 (2023.5.18)

2021年にはオンラインで台湾文化協会百周年記念シンポジウムへ参加、2022年には本科研プロジェクト中間シンポジウムを開催、明治大学資料センターHP「白雲なびく～遙かなる明大山脈～」においてコラムの発信が開始されている。コラムを拝見したが専門外の私にも分かりやすく、特に高田氏による「アジアに広がる明大山脈」は今回の講演に関わる内容で大変勉強になった。

今後の課題において、学籍簿や成績表が個人情報観点から調査に使用できず、データベース入力には校友会名簿をもとに行われてい

るとのお話があった。本学においても学籍簿の扱いは難しく、問い合わせ等には明治大学と同様に卒業生団体桜楓会の名簿で対応することが多い。今回高田氏の講演を拝聴したことで、本学の留学生に関する調査や学籍簿

等の取り扱いについて、取り組むべき課題を改めて考える貴重な機会となった。高田氏をはじめ、会場校である明治大学関係各位に心よりお礼を申し上げたい。

2023年7月20日（木）第133回東日本部会研究会（於：東洋学園大学）

全国大学史資料協議会第133回東日本部会研究会に参加して

法政大学HOSEIミュージアム 白土亜枝

2023年7月20日（木）、東洋学園大学において、全国大学史資料協議会第133回東日本部会研究会が開催された。本研究会では、東洋学園史料室室長永藤欣久氏により、「1. 東洋学園史料室の移転と現状—小規模大学の事例」「2. 近年の受け入れ資料を通じてみる地域との関わり」、ふたつの講演が行われた上で、東洋学園史料室の見学会が催された。

ひとつ目の講演「1. 東洋学園史料室の移転と現状—小規模大学の事例」では、現在の史料室ができるまでの経緯や歴代の展示室に関して、時系列を追って説明がなされた。東洋学園史料室は、平均にして3年に1度の移転を繰り返した後、現在の東洋学園大学本郷キャンパス1号館9階に位置している。開設からの度々の移転、それに伴う資料の移動や展示室の設営・整備など、永藤氏がひとりで担当されていたとのことだった。所蔵されている資料を全て把握した上で、安全に移動させることに加え、新たに展示室を作り直す

ことは、とても大きな労力と根気のいる作業であったと思われる。また、史料室の移転に伴い、これまで使用していた展示室を解体しなければならず、その場面に立ち会うことがとても辛かった、その時の写真を見ると今でも胸がいっぱいになるとおっしゃっていたことが印象的であった。永藤氏が多くの時間をかけて大切に制作した展示室であったことを言葉の端々から感じた。



辻中豊学長（2023.7.20）

また、現在の史料室では、資料の収蔵や動線が工夫されていることや歴代の展示室で使

用されていた資料ケースが再利用されていること、これまでの展示パネルの解説文をもとに、より分かりやすく書き直した展示パネルが設置されていることなどが説明された。例えば、資料の保管に関しては、展示ケースの下部に収納場所を設けるなど、限られた史料室のスペースをいかに、効率的に使用するか、工夫を凝らしているとのことであった。また、埃を防ぐ、フィルターの設置など、問題が起きた際には、その都度迅速に対応をなされているとのことだった。



永藤氏 (2023.7.20)

そして、ふたつ目の講演「2. 近年の受け入れ資料を通じてみる地域との関わり」では、東洋学園の創立や第一次明華女歯紛争、社会や地域との関わりについての説明がなされた。現在の東洋学園大学は、女子歯学教育のための学校が前身であること、またより良い教育を受ける権利を得るため、学生や父母が声を上げていたこと、戦前の留学生や戦時中の学生の様子など、各時代の学生の姿について解説があった。

見学会では、史料室を見学し、永藤氏が説明されていた史料室に施された様々な工夫を実際に目にすることができた。例えば、展示ケースの下が資料の収納場所になっていることは、講演を通して事前に知らなければ、決して分からないものであつたらう。また、事務室や資料の収蔵スペースが、鑑賞者から見える構造になっており、鑑賞者が史料室における職員の作業を目にすることができる一方で、職員が鑑賞者の様子や反応を実際に目にすることができることが興味深いと思つた。私の所属する法政大学H O S E I ミュージアムは、事務室とミュージアムの距離があり、鑑賞している人の反応や表情を日常的に目にすることは少ない。鑑賞者がどのように鑑賞しているのか、どのような表情をしているのか、実感として知ることができることは、貴重な経験であると思う。また、私自身も、日ごろ目にする鑑賞者の反応や感想を心に留めておきたい。今年5月に入職し、大学史に足を踏み入れて間もなく、分からないこともあるが、多角的な視点から、より分かりやすく、魅力的に大学史を伝えられるよう努力を重ねていきたいと考えている。

全国大学史資料協議会東日本部会

2023年度総会議事録

日時 2023年5月18日(木)
14:00～16:00
会場 明治大学駿河台キャンパス・グローバルフロント1階グローバルホール
出席会員 機関会員32校、個人会員6名

[部会総会の成立]

*現会員と出欠状況

	総計	出席	欠席届
機関会員	67	32	23
個人会員	42	6	13
総計	109	38	36

*総会定足数は、機関会員67、個人会員42の総計109の過半数55である。

*部会規約第11条第5項に基づき、欠席届を委任状とするため、出席会員数(38)と欠席届提出会員数(36)の合計は74となり、部会総会は成立した。

[配布資料]

1. 総会次第
2. 2023年度総会参加者一覧
3. 2022年度事業報告書
4. 2022年度収支決算書
5. 2022年度貸借対照表・監査結果
6. 2023年度事業計画書(案)
7. 2023年度収支予算書(案)
8. 東日本部会会員名簿

開会の挨拶 豊田雅幸氏(立教学院)
議長を選出 議長 秋山彩子氏(法政大学)
副議長 岩立将史氏(中央大学)

議事

- (1) 2022年度事業報告・同決算報告について

- ・事務局(明治大学)および会計校(東海大学)より報告があり、満場一致でこれを承認した。
- (2) 2022年度監査報告について
 - ・監査委員(古俣達郎氏)より決算が適正であった旨の報告があり、満場一致でこれを承認した。
- (3) 2023年度事業計画案・同予算案について
 - ・事務局(明治大学)および会計校(東海大学)より報告があり、満場一致でこれを承認した。

閉会の挨拶 上野平真希氏(日本大学)
記念講演 高田幸男氏(明治大学史資料センター副所長、文学部教授)
演題「明治大学史資料センターにおけるアジア留学生史研究の現状と課題」

[概要]

2023年度東日本部会総会および記念講演は、明治大学において4年ぶりに完全対面方式で行われた。会長校挨拶の後、部会総会は議題に沿って滞りなく議事が進められ、無事にすべて承認された。続いて明治大学史資料センター副所長である高田幸男氏(明治大学文学部教授)より「明治大学史資料センターにおけるアジア留学生史研究の現状と課題」と題した記念講演が行われた。これまでまとまった研究がなされてこなかったアジア留学生たちの実態について調査研究するため、学内で共同研究チーム「アジア留学生研究会」を立ち上げて以降、これまでの研究で明治期からの多くの留学生たちの数的把握をはじめ、留学中の動向、帰国後の活躍などが明らかになってきた。また、アジア留学生たちを校友として位置づけるとともに海外調査など活発な活動も展開。コロナ禍の数年にわたる停滞期などを経験しつつも、現在は海外調査および交流が再開している。明治大学の取り組みにおける具体的な研究方法や成果について詳細な説明をうかがうことができた。

(大東文化大学 浅沼薫奈)

全国大学史資料協議会東日本部会
2022年度収支決算書
2022年4月1日～2023年3月31日

収入				(単位:円)
項目	予算	決算	増減	摘要
会費収入	1,520,000	1,485,000	35,000	
法人等会員	1,320,000	1,320,000	0	66機関分×20,000円(※1機関滞納)
個人会員	200,000	165,000	35,000	33名分(他延滞2口、先納1口含む)×5,000円(※3名滞納)
利息収入	1,000	60	940	
預貯金利息	1,000	60	940	預金利息
参加費収入	0	0	0	
部会総会参加費	0	0	0	※2022年度(専修大学)は参加費徴収せず
全国総会参加費	0	0	0	※2022年度(神奈川大学)は参加費徴収せず
雑収入	0	0	0	
雑収入	0	0	0	
合計	1,521,000	1,485,060	35,940	

支出				(単位:円)
項目	予算	決算	増減	摘要
運営費支出	80,000	59,841	20,159	
総会費	20,000	0	20,000	
幹事会費	40,000	33,000	7,000	Zoomアカウント年間契約料
部会研究会費	20,000	26,841	△ 6,841	2022年度全国研究会経費、定例研究会の会場使用料及び謝礼
謝礼支出	80,000	44,548	35,452	
講師謝礼等	80,000	44,548	35,452	講演謝金(2名分)、同源泉所得税
消耗品費支出	10,000	0	10,000	
消耗品費	10,000	0	10,000	
印刷費支出	400,000	198,770	201,230	
印刷費	400,000	198,770	201,230	会報印刷費(No.67・No.68)、協議会通信用封筒増刷
通信費支出	180,000	155,495	24,505	
事務連絡費	180,000	155,495	24,505	会員連絡費、会報発送費(No.67・No.68分)、通信物切手料金等
手数料支出	10,000	3,080	6,920	
手数料等	10,000	3,080	6,920	金融機関送金手数料他
参加費支出	0	0	0	
総会参加費	0	0	0	※2022年度は支出無し
旅費交通費	0	0	0	
旅費交通費	0	0	0	
事業費支出	550,000	435,846	114,154	
出版事業	250,000	210,225	39,775	研究叢書22号(東日本部会分担分)
その他	0	0	0	
ホームページ事業	300,000	225,621	74,379	ウェブサイト更新料等(※西日本分担金218,053円)
ホームページ 改善積立金	0	0	0	
予備費	50,000	0	50,000	
合計	1,360,000	897,580	462,420	
当年度収支差額	161,000	587,480	—	
前年度繰越収支差額	5,999,815	5,999,815	—	
翌年度繰越収支差額	6,160,815	6,587,295	—	

2022年度貸借対照表

2023年3月31日

資 産		(単位:円)		
項 目	本年度末	前年度末	増 減	摘 要
ホームページ改善積立金	600,000	600,000	0	
三井住友銀行	600,000	600,000	0	三井住友銀行 経堂支店普通預金
銀行預金	6,570,888	5,976,184	594,704	
三井住友銀行	6,570,888	5,976,184	594,704	三井住友銀行 経堂支店普通預金
現金	16,407	23,631	△ 7,224	
事務局校	0	0	0	
会計校	16,407	23,631	△ 7,224	東海大学
合 計	7,187,295	6,599,815	587,480	

負債・収支差額		(単位:円)		
項 目	本年度末	前年度末	増 減	摘 要
負債	600,000	600,000	0	
ホームページ改善引当金	600,000	600,000	0	
収支差額	6,587,295	5,999,815	587,480	
収支差額	6,587,295	5,999,815	587,480	
合 計	7,187,295	6,599,815	587,480	

2023年 4 月 1 日

上記の通り報告します。

会計委員 東海大学 椿田 卓士 印

帝京大学 堀越 峰之 印

2023年 4 月 14 日

監査の結果、適正と認めます。

監査委員 國學院大學 渡邊 卓 印

個人会員 古俣 達郎 印

全国大学史資料協議会東日本部会
2023年度収支予算書（案）
2023年4月1日～2024年3月31日

収入				(単位:円)
項目	2023年度予算	2022年度予算	増減	摘要
会費収入	1,585,000	1,520,000	△ 65,000	
法人会員	1,360,000	1,320,000	△ 40,000	67機関 @20,000円 + 昨年度滞納1口分
個人会員	225,000	200,000	△ 25,000	39名 @5,000円 + 昨年度滞納6口分
利息収入	1,000	1,000	0	
預貯金利息	1,000	1,000	0	銀行利息
参加費収入	0	0	0	
部会総会参加費	0	0	0	30名 @0円(2023年度は明治大学) ※2022年度は対面+オンライン開催
全国総会参加費	0	0	0	50名 @0円(2023年度は立命館大学) ※2022年度は対面+オンライン開催
雑収入	0	0	0	
雑収入	0	0	0	
合計	1,586,000	1,521,000	△ 65,000	

支出				(単位:円)
項目	2023年度予算	2022年度予算	増減	摘要
運営費支出	80,000	80,000	0	
総会費	20,000	20,000	0	会場費・設備使用料、資料作成費、他開催経費
幹事会費	40,000	40,000	0	Zoomライセンス契約料、会場費・設備使用料他
部会研究会費	20,000	20,000	0	会場費・入場料・飲料代他
謝礼支出	80,000	80,000	0	
講師謝礼等	80,000	80,000	0	講演料・原稿料・源泉税・課税交通費他
消耗品費支出	10,000	10,000	0	
消耗品費	10,000	10,000	0	事務消耗品費
印刷費支出	400,000	400,000	0	
印刷費支出	400,000	400,000	0	会報印刷費(No.69およびNo.70 年2回分)他
通信費支出	180,000	180,000	0	
事務連絡費	180,000	180,000	0	会員連絡費、会報送料(No.69およびNo.70 年2回分)
手数料支出	10,000	10,000	0	
手数料等	10,000	10,000	0	金融機関振込手数料他
参加費支出	0	0	0	
総会参加費	0	0	0	
旅費交通費	0	0	0	
旅費交通費	0	0	0	
事業費支出	550,000	550,000	0	
出版事業	250,000	250,000	0	叢書23号印刷費(東日本部会担当)、その他
その他	0	0	0	
ホームページ事業	300,000	300,000	0	サーバ証明発行費・サイト更新費等維持管理金、その他
ホームページ 改善積立金	0	0	0	ホームページのバージョンアップ・機能追加臨時経費
予備費	50,000	50,000	0	
合計	1,360,000	1,360,000	0	

当年度収支差額	226,000	161,000	—	
前年度繰越収支差額	863,436	702,436	—	
翌年度繰越収支差額	1,089,436	863,436	—	

全国大学史資料協議会東日本部会
幹事会議事録

第211回全国大学史資料協議会東日本部会
幹事会議事録

日時 2023年3月16日(木)
13:00～13:30

会場 法政大学多摩キャンパス・総合棟5
階第一会議室

形式 ハイブリッド

出席 神奈川大学 國學院大學 淑徳大学
大東文化大学 東海大学 日本大学
武蔵野美術大学 明治大学 立教学
院 古俣達郎 檜皮瑞樹

議題

- (1) 『研究叢書』第22号東西按分について
 - ・事務局(明治大学)及び合計校(東海大学)から、東日本部会として20部の増加とそれに伴う予算の変更について報告された。
- (2) 5月東日本部会総会について
 - ・明治大学を会場として開催することとした。日程、内容などについては今後調整する。
- (3) 2023年度年間テーマについて
 - ・檜皮会員より提案のあった「地域の歴史・記憶と大学史資料」とすることとした。
- (4) 大学史資料所蔵機関紹介ページの更新について
 - ・日本大学より報告があり、今後事務局から会員校に連絡することとした。

第212回全国大学史資料協議会東日本部会
幹事会議事録

日時 2023年4月27日(木)

14:00～15:00

形式 オンライン

出席 神奈川大学 國學院大學 淑徳大学
大東文化大学 帝京大学 東海大学
日本大学 武蔵野美術大学 明治大
学 立教学院 檜皮瑞樹

議題

- (1) 5月18日開催東日本部会総会について
 - ・事務局(明治大学)から総会資料案などを説明し、役割分担など確認した。
- (2) 全国研究会の報告者について
 - ・事務局(明治大学)から、テーマ「歴史の再評価のために」について報告があった。報告者については、より具体的な内容などについての連絡があったのち、改めて検討する。
- (3) 新入会員について
 - ・事務局(明治大学)から、相模女子大学の入会、難波優多氏の入会について説明があり、これを承認した。
- (4) 東京女子医科大学史料室の退会について
 - ・事務局(明治大学)から説明があったが、書面(退会届)の提出後に退会を認めることとした。
- (5) 担当者等の変更について
 - ・事務局(明治大学)から、青山学院・愛知大学・関東学院・女子美術大学・多摩美術大学・中央大学・富山大学・日本獣医生命科学大学・早稲田大学・立教大学の情報修正について報告があった。
- (6) その他
 - ・総会の出欠アンケートに、幹事会・研究会の開催希望曜日についての項目を設け、今後の開催曜日の参考とすることとした。

日本大学の情報修正について報告があった。

- ・日本大学からホームページ修正について報告があった。

第 215 回全国大学史資料協議会東日本部会
幹事会議事録

日 時 2023 年 9 月 21 日 (木)
14 : 00 ~ 14 : 50

形 式 オンライン

出 席 神奈川大学 淑徳大学 専修大学
大東文化大学 東海大学 日本大学
武蔵野美術大学 明治大学 帝京大学

議 題

- (1) 2023 年度全国研究会について
 - ・2023 年度全国研究会での役割分担等について確認した。
- (2) 2024 年度全国研究会について
 - ・会場候補にあがった機関に対して、事務局（専修大学）から打診することとした。
- (3) 第 135 回研究会について
 - ・12 月 19 日（火）に昭和大学上條記念ミュージアムで開催することで調整することとした。
- (4) 『研究叢書』の制作部数について
 - ・これまでの 450 部から 480 部に増刷することとした。
- (5) 西日本部会からの照会について
 - ・東日本部会ではインボイス制度について特段の対応をしないこと、会費未納については 2 年で退会扱いとしていることを回答することとした。
- (6) 2023 年度全国研究会の参加記執筆者について
 - ・参加者の中から 3 人にお願いすることとした。

全国大学史資料協議会東日本部会
研究会記録

第 132 回全国大学史資料協議会東日本部会
研究会記録

日 時 2023 年 3 月 16 日 (木)
14 : 00 ~ 16 : 30

会 場 法政大学多摩キャンパス（環境アーカイヴズ、大原社会問題研究所）

会場出席

専修大学 拓殖大学 中央大学 日本大学 法政大学 明治大学 帝京大学 立教学院 武蔵野美術大学 多摩美術大学 阿部伊作 喜好可南子 林慎一郎 古郡信幸 山田兼一郎

オンライン出席

神奈川大学 関東学院 國學院大學 淑徳大学 女子美術大学 玉川大学 中央大学 東洋大学 大東文化大学 日本大学 法政大学 早稲田大学 立教学院 桑尾光太郎 檜皮瑞樹

〔概要〕

本研究会は、法政大学多摩キャンパス総合棟を会場に対面とオンラインのハイブリッド形式にて開催された。会長校の挨拶の後、法政大学 HOSEI ミュージアムの古俣達郎氏より「法政大学多摩キャンパスの歴史と現在」をテーマにご講演いただいた。

講演では法政大学における校舎・キャンパスの変遷（戦前戦後）をみた後、市ヶ谷キャンパス、小金井キャンパスに次いで 1984 年に開設された多摩キャンパスに関し詳しい報告がなされた。まず開設に至るまでの間について、移転の背景にあったもの、多摩地域が用地に選ばれた理由、多摩キャンパス開発計画が辿った経緯等を軸に時代状況もまじえながら具体的に説明された。次に開設以後の流

れや課題、地域連携を含む現在の取組みについて述べられ、最後に多摩キャンパスの将来構想を紹介され講演を締めくくられた。質疑応答後は法政大学大原社会問題研究所、同環境アーカイブズに場所を移して見学会が行われた。前者では中村美香氏に、後者では宇野淳子氏にご案内いただいた。

(立教学院 今井祥子)

めぐる永藤氏の経験談を中心に、資料の保存方法や来館者対応をめぐるさまざまな事例が報告された。後者では、おもに東洋学園大学史料室の展示資料・パネルを素材に、パネルでは紹介しきれない学園史に関わる情報や、資料受け入れをめぐる経緯や資料と地域との関わりについて報告された。その後、東洋学園大学史料室についてご案内いただいた。

(明治大学 阿部裕樹)

第133回全国大学史資料協議会東日本部会 研究会記録

日時 2023年7月20日(木)

14:00～16:30

会場 東洋学園大学本郷キャンパス・1号館フェニックスホール及び東洋学園史料室(東京都文京区本郷1-26-3)

出席 神奈川大学 関東学院 國學院大學 相模女子大学 淑徳大学 女子美術大学 聖心女子大学 専修大学 拓殖大学 多摩美術大学 中央大学 東邦大学 東洋大学 日本大学 法政大学 武蔵野美術大学 明治大学 立教学院 谷嶋美和乃 喜好看南子 古郡信幸

報告 永藤欣久氏「東洋学園史料室の移転と現況——小規模大学の事例」、同「近年の受け入れ資料資料を通じて見る地域との関わり」

施設見学 東洋学園史料室

〔概要〕

本研究会における報告は、東洋学園史料室の永藤欣久氏による「東洋学園史料室の移転と現況——小規模大学の事例」と、「近年の受け入れ資料を通じて見る地域との関わり」の2本であった。前者では、流山から本郷への移転に伴う東洋学園大学史料室の移転を

ご案内

全国大学史資料協議会および同協議会東日本部会に関するお問い合わせ、入会申し込みは、下記へご連絡ください。

【明治大学史資料センター】

〒101-8301

東京都千代田区神田駿河台1-1

TEL: 03 (3296) 4448

MAIL: history@meiji.ac.jp

【専修大学大学史資料室】

〒102-8275

東京都千代田区神田神保町3-8

TEL: 03 (3265) 5879

MAIL: archives@acc.senshu-u.ac.jp

会報編集

【大東文化大学 大東文化歴史資料館】

〒175-0083

東京都板橋区徳丸2-19-10

大東文化大学徳丸研究棟

TEL: 03 (5399) 7646